

# 新潟県中越地域における 地域復興支援員の取り組み

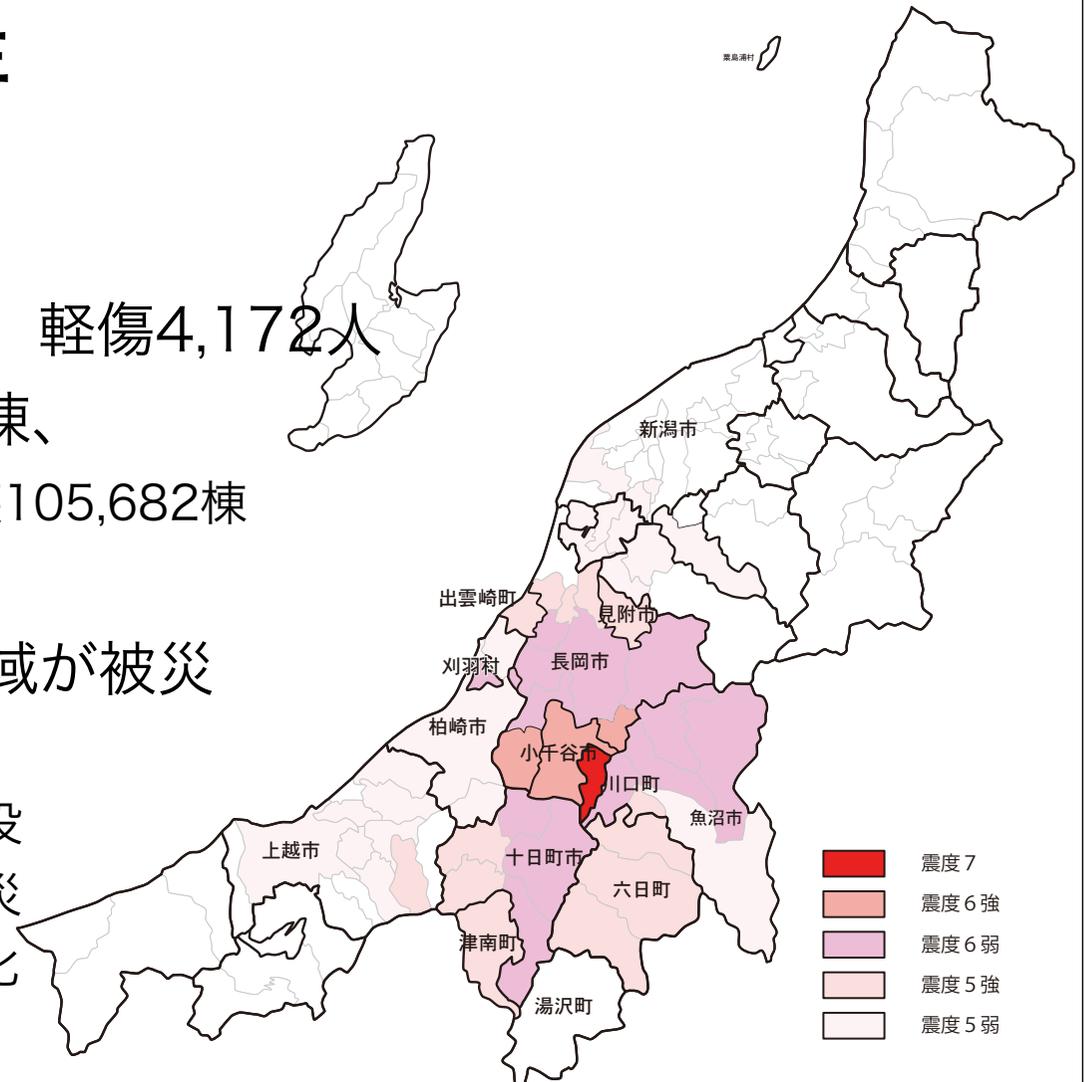
「人的支援」による地域復興

徳島大学総合科学部 田口太郎  
taguchi@tokushima-u.ac.jp

# 新潟県中越大震災

## 2004年10月23日 発生

- 地震規模：M6.8
- 死者：68名
- 重軽傷者：重傷633人、軽傷4,172人
- 家屋被害：全壊3,175棟、
  - ・ 半壊13,810棟、一部損壊105,682棟
- 過疎化の進む中山間地域が被災
  - ・ 山古志村の全村避難
  - ・ 河道閉塞による集落の水没
  - ・ 住宅のみならず農地も被災
  - ・ 地すべりによる地形の変化

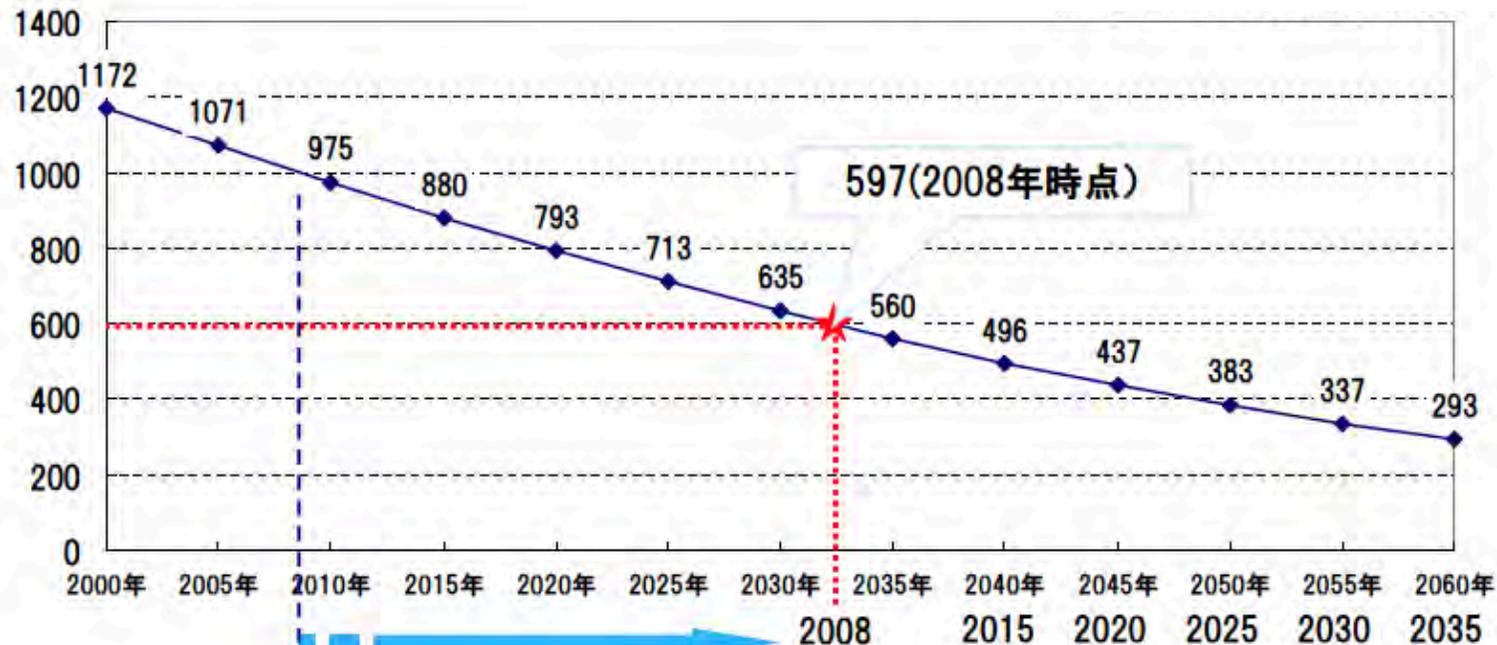


# 地震が中山間地域にもたらしたもの

## 過疎化の進行

- おおよそ20年分過疎化が進んだ
- 集落の存続の問題が突然、現実のものとなった

小千谷市東山地区における人口推計



※長岡造形大学澤田准教授作成

# 地震が中山間地域にもたらしたもの

## 地震は新たな課題を地域につきつけるのか？

- ◎ 過疎化の進行
  - ・ 集落に対する「諦め感」
- ◎ 将来への不安
  - ・ 地域の将来への漠然とした不安
  - ・ 今後の被災への不安
- ◎ 地域への愛着
  - ・ 地域への愛着はある
  - ・ 今更、都会では暮らせない

## 地震は新たな課題をつきつけるのではなく、潜在的／慢性的な課題を顕在化させる出来事

- ◎ これまで取り組んで来なかった集落課題への取り組みこそが「復興の取り組み」となる

# 復興の取組みの中で新たな取組みも生まれた

## 都市農村交流

- 被災直後に関わってくれた**大学生やボランティアとの継続的な交流**が**地域に元気**をもたらした
- 交流事業を通じた**新たな交流施設の設置**
- **数多く生まれた直売所**



## 集落間交流

- 途絶えていた**盆踊りの復活**
  - ・ 旧二十村郷盆踊りの復活
    - ▶ (小千谷市東山地区・旧川口町荒谷地区・木沢地区、旧山古志村
  - ・ 話し合ってみたところ、行政域はわかれていてもお囃子が同じだった！

様々な**交流を通じた地域の「元気」**が生まれ、**過疎化が進む中でも活力を持つ集落が多数生まれた**

# 何が新しい動きを生み出したのか？

## 被災直後のボランティア組織

- 長期的に関わっていた災害ボランティアを中心に市民による復興支援組織「中越復興市民会議」が誕生（2005年）
  - →現在（社）中越防災安全推進機構復興デザインセンター
- **集落住民と共に**悩みながら地域の将来像について考えた
- 集落住民の“**小さな想い**”を後押しし、具体化した

## 近隣の大学生の取り組み

- 近隣大学などの大学生が授業などを通じて地域に入り、集落住民とともに泣き・笑い

**大学生や外部支援者の地域への敬意や感動が集落住民に自らの価値を気づかせた**

# 「地域復興支援員」の誕生

## 「中越復興市民会議」の発展型としての地域復興支援員

- 数名で活動していた「中越復興市民会議」への評価
- 中越地震復興基金に「地域復興支援員設置支援」事業
- 2007年10月に先行して1名、2008年4月より50名程度設置
- 各地域に「復興支援センター」を設置し、そこに復興支援員が配置される
  - 長岡市地域復興支援センター（現長岡市域）
    - 栃尾サテライト（旧栃尾市域）／小国サテライト（旧小国町域）／山古志サテライト（旧山古志村域）／川口サテライト（旧川口町域）
  - 十日町里やまセンター（旧十日町域）
  - 小千谷復興支援室（小千谷市域）
  - 南魚沼地域復興支援センター（南魚沼市域）
  - 魚沼市地域づくり振興公社（魚沼市域）

# 復興支援員はどんな人材が担っているか？

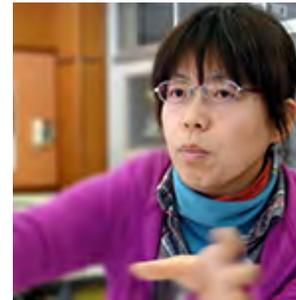
## 例えば...

- ◎ 長岡地域復興支援センター川口サテライト
- ◎ 2007年10月に先行して復興支援員を1名設置



### K君 (20代)

近隣の大学在学時に川口町の  
集落でボランティア活動。卒業後、市民会議でアルバイト  
2007年10月先行して川口に  
設置



### Wさん (40代)

被災前から川口町が好きで  
度々訪れていた。Iターンを  
検討していたところ、Hさん  
に誘われて、復興支援員に。



### Hさん (60前後?)

川口町役場で復興まちづくり  
を担当し、支援員を設置。  
早期退職して復興支援員に。



### Nさん (30代)

川口町内の3セク宿泊施設に  
勤務。勤務に閉塞感を感じて  
退職。復興支援員に。

# 復興支援員はどんな活動をしている？

例えば...

## 長岡地域復興支援センター栃尾サテライトのブログ

<http://ameblo.jp/totio-satellites/>

- ◎ 8月13日 荷頃インターン開始
- ◎ 8月12日 一之貝インターン
- ◎ 8月11日 第9回かりやだ交流会
- ◎ 8月10日 とうきび観音祭で野菜販売
- ◎ 8月 2日 栗山沢畑活動と野菜販売
- ◎ 7月30日 刈谷田中学校先生と地域見学会
- ◎ 7月27日 よってげ場で野菜販売
- ◎ 7月25日 栗山沢畑活動6回目
- ◎ 7月24日 刈谷田中学校3年生授業

# 復興支援員の「支援」とはなにか？

## 生活補完型支援 ～困った部分を助ける～

- 前を向くための喫緊課題の克服
- 過疎高齢化からくる生活の不便への「諦め感」からの脱却

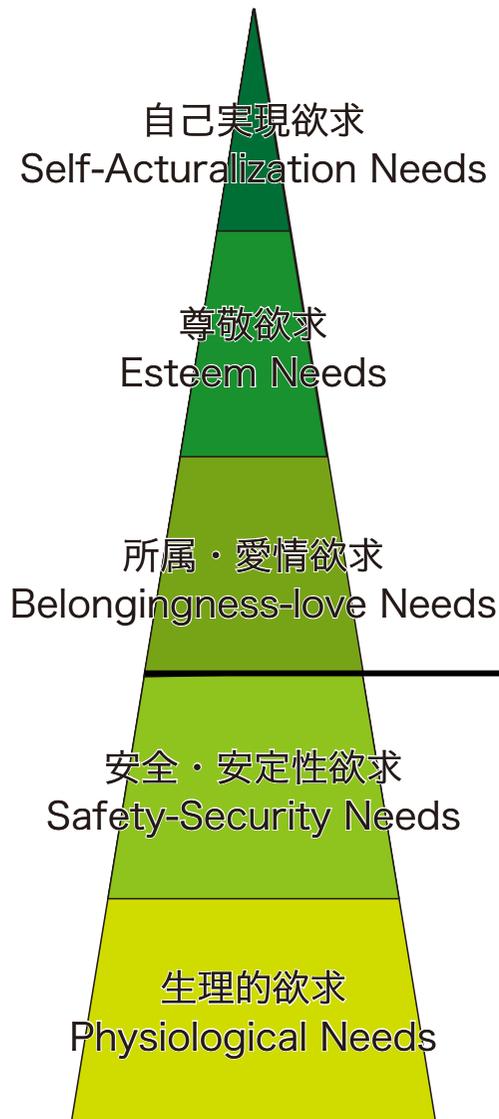
## 価値創造型支援 ～上を向いて歩こう～

- 違った視点からの地域の再評価
- 再評価から生まれる「やる気」と「自信」
- 取り組みにより回復される「地域の誇り」
- 地域の元気づくりから生まれる新しい価値

## 「生活補完」から「価値創造」への昇華

- 「地域の豊かな暮らし」の再定義による価値創造

# 生活補完／価値創造とは？



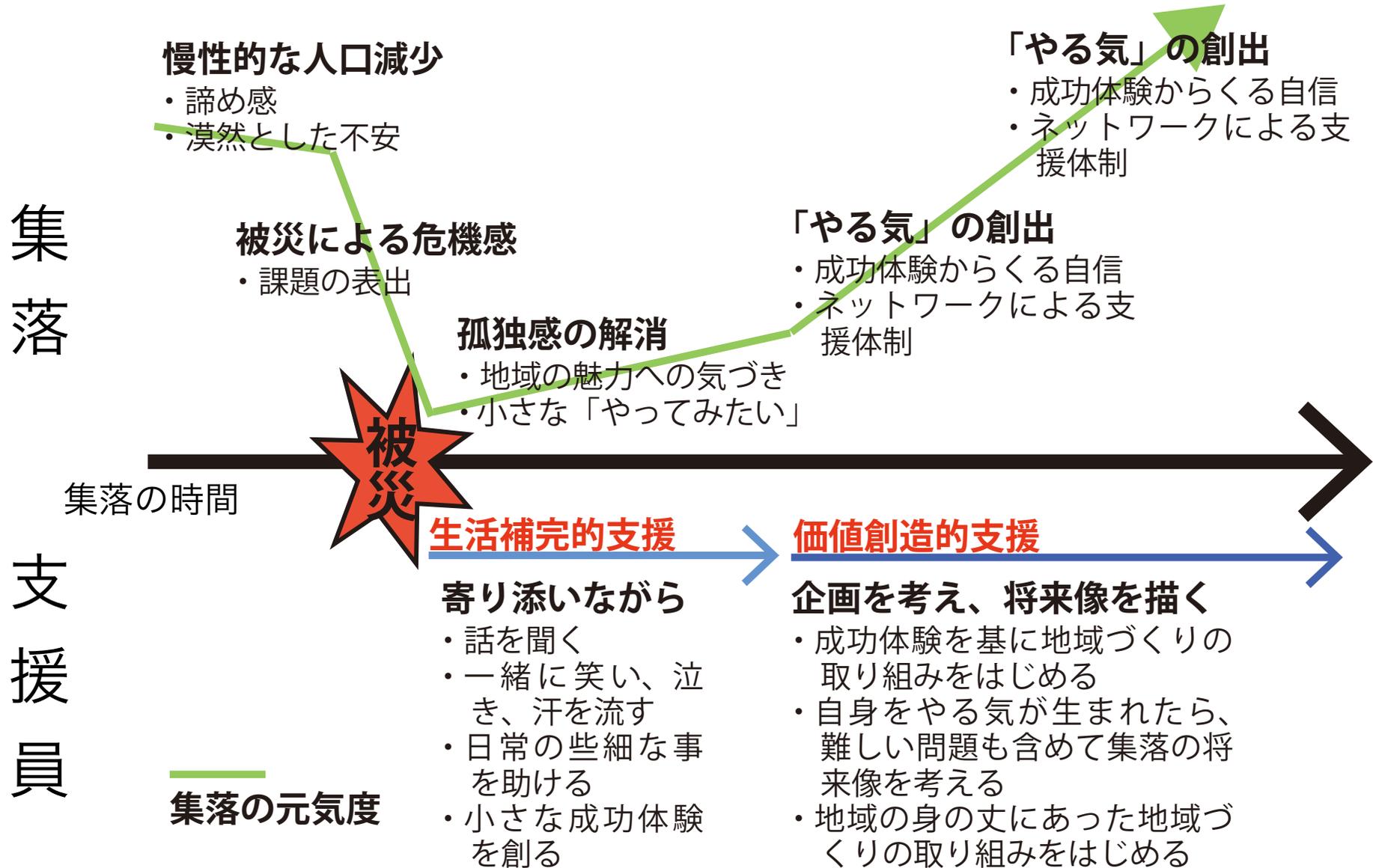
## 価値創造型支援

地域住民が地域の価値を再認識した上で、外部の意見も取り入れることで**主体的且つ地域独自の活動**（**地域の新しい価値観**）を生み出し、**持続的な地域づくりへと昇華**させる

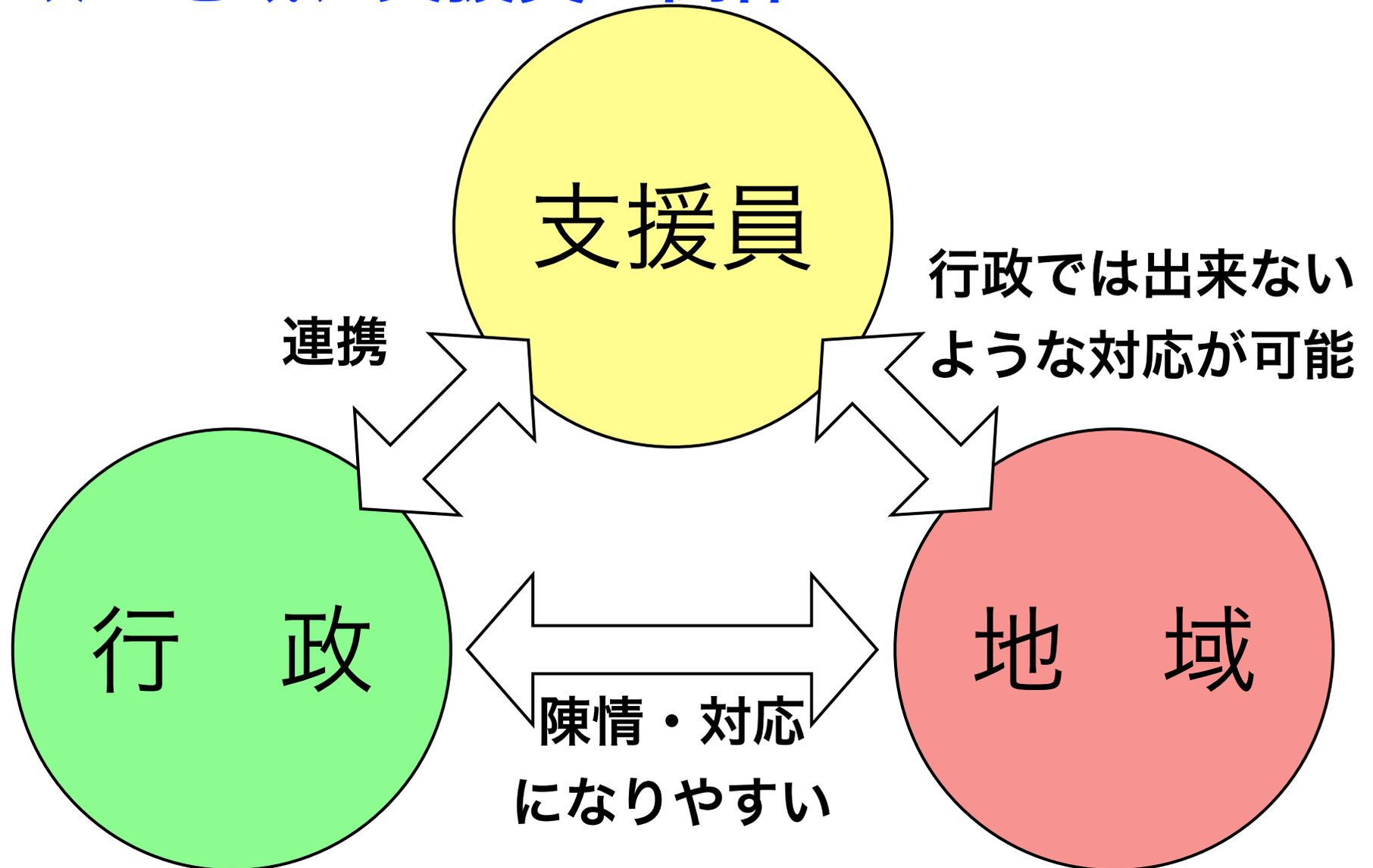
## 生活補完型支援

身近な課題をまず解決しなくては地域おこしの機運が生まれない  
→寄り添い、**信頼関係をつくり**ながら**小さな成功体験をつくりだす**

# 支援員の取り組みの時系列的変化



## 行政と地域、支援員の関係



# 復興支援員の取り組みの特徴と課題

## 取り組みが「支援員」のキャラクターに依存する

- ◎ 支援員のキャラクターによって地域の動きが変わってくる
  - ・ “若くて頼りない”支援員だと、地域がまとまる！？
  - ・ “デザインに強い”支援員だとグッズが生まれる！？
  - ・ “ビジネスに強い”支援員だと、コミュニティビジネスも！？
  - ・ “バスガイド出身”支援員は地域のツアーガイドに！？

## 成果が見えにくい

- ◎ 人口だけを評価軸に出来ないので、**具体的成果が見えにくい**
- ◎ **若者が遊んでいるだけ！**と見られてしまうことも

## 取り組みに地域的偏りが生まれやすい

- ◎ 取り組みやすい集落、**取り組みにくい集落の存在**
- ◎ **他集落からひがまれる**ことも？

# 復興支援員の取り組みの特徴と課題

## スキルを持っている人が優秀とは限らない

- 集落と歩調が合うことが必要
- 最短距離（プロフェッショナルなアドバイス）は必ずしも正しくない→住民が理解できず依存が生まれる

## 支援員の能力差による取り組みの違い

- 優秀な支援員とそうでない支援員
- 支援員同志でスキルの相互補完が出来るとよい

## 任期がある

- 支援員に依存する活動が増えると、任期の終了とともに活動が終わる可能性も
- 支援員へ依存しない自律的な取り組みを創る必要

# 支援員へのサポートも重要

## 現場で大忙しな支援員

- 集落の会合はほぼ毎晩！24時間気が休まらないことも
- 現場で悩み、もがいている
- 実際の取組みで忙しく、冷静になって考えるヒマがない

## 研修会、情報交換の場が重要

- 中越地域では毎月1回「研修会」という名の情報交換（ガス抜き？）を実施
- 月に1度、現場を離れ、取組みを振り返ることで活動を総括できる

## 後方支援組織が重要

- 俯瞰的な立場で支援員をサポートする組織が重要
- 中越では（社）中越防災安全推進機構がサポート

# 「人的支援」の広がり

## 全国に広がった「人的支援」の動き

- 2008年度 集落支援員設置（総務省）
- 2008年度 田舎で働き隊（農水省）
- 2009年度 地域おこし協力隊設置（総務省）
- 2012年度 東北における復興支援員（総務省）
- 地域おこし協力隊の定住率は7割！

	集落支援員		地域おこし協力隊
	専任	兼務	
平成20年	199	約2,000	—
平成21年	449	約3,500	89
平成22年	500	約3,600	257
平成23年	597	約3,700	413

※総務省HPデータより作成

# 全国的な人的支援のサポート体制

## 全国規模の研修会

- ◎ 初任者研修会 & 交流会
  - ・ 初任者の支援員を対象とした地域デザインのシミュレーション
- ◎ ブラッシュアップ研修会 & 交流会
  - ・ 閉塞感を抱えた支援員を対象としたゼミ形式の振り返り
- ◎ 担当行政職員向け研修会 & 交流会
  - ・ 導入済み、導入予定自治体職員向け情報提供など



## 全国規模の人的支援ネットワーク

- ◎ 地域サポート人ネットワーク全国協議会
- ◎ Facebook上の人的支援コミュニティ

